

第256号

目 次

関係法令..... 1	トリチウム科学センター長の改選..... 5
学内規則..... 2	叙位・叙勲..... 6
富山大学教養部規則の一部改正..... 2	工学部電気・化学系校舎等新営工事..... 6
諸会議..... 3	学内レクリエーション〈麻雀大会、
学事..... 4	卓球大会〉..... 10
昭和60年度文部省内地研究員の決定..... 4	寄稿〈オハイオ州立大学での
人事異動..... 5	いくつかの印象〉..... 10
学内諸報..... 5	職員消息..... 12
教育学部長の改選..... 5	主要行事..... 13
理学部長の改選..... 5	資 料..... 16
工学部長の改選..... 5	昭和60年度入学志願者数..... 16

.....

関 係 法 令

.....

(官報掲  
載月日)

(官報掲  
載月日)

省 令

- 大学設置基準の一部を改正する省令(文部1) 2・5
- 短期大学設置基準の一部を改正する省令(文部2) 2・5

- 級の官職等への任用候補者名簿による職員の任用に関する特例等)の一部を改正する規則(人事院8-13-1) 3・1
- 人事院規則9-8(初任給,昇格,昇給等の基準)の一部を改正する規則(人事院9-8-2) 3・1

規 則

- 人事院規則2-8(人事院の参与)の一部を改正する規則(人事院2-8-1) 2・27
- 人事院規則2-3(人事院事務総局の組織)の一部を改正する規則(人事院2-3-1) 3・1
- 人事院規則8-13(行政職俸給表(-)8等

告 示

- 外国あて通常郵便物の送達等に関し外国郵政庁で定める条 に関する件の一部を改正する件(郵政72) 2・5
- 外国あて小包郵便物の送達等に関し外国郵政庁で定める条件に関する件の一部を

改正する件（郵政73）	2・5	部23)	2・19
○短期大学の名称を変更する件（文部22）	2・19	○短期大学及び短期大学の学科の設置を認	
○短期大学の学科の位置を変更する件（文		可した件（文部25）	2・22

学 内 規 則

富山大学教養部規則の一部改正

富山大学教養部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和60年2月15日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学教養部規則の一部を改正する規則

富山大学教養部規則（昭和42年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

第1条中「富山大学学則」の次に「（以下「学則」という。）」を加える。

第5条第1号中「学科目」を「授業科目」に改め、同条第2号中「フランス語又は中国語」を「フランス語、中国語、ロシア語又は朝鮮語」に改める。

第8条の次に次の1条を加える。

（既修得単位の認定等）

第8条の2 学則第35条第2項の規定に基づき、認定を受けようとする者は、入学した年度始めの指定の期日までに、所定の申請書に必要書類を添えて、教養部長に願い出なければならない。

2 単位の認定は、前条第3項を準用する。

別表を次のように改める。

別表

分野	学 科 目	授 業 科 目	単 位 数
一 般	人	哲 学	4 }◎
		論 理 学	2 }
	倫 理 学	倫 理 学	4
		心 理 学	4
	歴 史 学	心 理 学 演 習	1
		日 本 史	4 }◎
		東 洋 史	4 }
	文	西 洋 史	4
		文 学	4
		音 楽	4
美 術	4		

教 育 科 目	社 会	法 学	法 学	4 }◎
			日 本 国 憲 法	2 }
		経 済 学	経 済 学	4
	自 然	統 計 学	統 計 学	4
		政 治 学	政 治 学	4
		地 理 学	地 理 学	4
社 会 学		社 会 学	4	
数 学		数 学	4	
目	物 理 学	物 理 学	4	
		物 理 学 実 験	1	
	化 学	化 学	4	
		化 学 実 験	1	
	生 物 学	生 物 学	4	
		生 物 学 実 験	1	
		地 学	4 }◎	
地 学	地 学	4 }		
	天 文 学	2 }		
	地 学 実 験	1		
合	環 境 科 学	社 会 環 境 論	4	
		自 然 環 境 論	4	
	英 語	現 代 社 会 論	2	
		富 山 の 自 然	2	
		情 報 と 科 学	2	
		※ 自 然 と 文 化	2	
		英 語	英 語	8
	※ 英 会 話	3		
外 国 語 科 目	ド イ ツ 語	ド イ ツ 語	8	
		※ ド イ ツ 語 会 話	2	
	フ ラ ン ス 語	フ ラ ン ス 語	8	
	中 国 語	中 国 語	8	

	ラテン語	※ラテン語	2
		ロシア語	8
		朝鮮語	8
保 健 体育科目	保健体育	体育講義	1
		保健講義	1
		体育実技	2

- 備考 1 ◎印内の授業科目は、組み合わせて修得してもすべて卒業要件単位として認めるが、そのうち4単位のみを規則第5条第1号に定める人文、社会及び自然の各分野における一の授業科目を修得したものとみなす。
- 2 ※印は、卒業要件単位に含まれない授業科目である。

附 則

- この規則は、昭和60年4月1日から施行する。
- 昭和59年度以前の入学者については、なお従前の例による。

▶富山大学教養部規則の改正理由

- 授業科目のうちロシア語及び朝鮮語の単位数を整理すると共に卒業要件単位に含め、教育内容の充実を図る。
- 既修得単位の認定方法等を明確にするほか、字句を整理し、所要事項を改める。

諸 会 議

第2回学長選考管理委員会（2月4日）

第1回学長候補適任者選定委員会（2月4日）

昭和59年度第10回学寮補導委員会（2月4日）

（報告事項）

- 寮生との「話し合い」の結果について
- 水道料問題について

（審議事項）

- 受験生宿泊について

昭和60年公開講座第3回委員会（2月12日）

（議 題）

- 昭和60年度公開講座の実施計画について

昭和59年度第6回入学者選抜方法研究委員会専門委員会（2月15日）

（審議事項）

- 入学者選抜方法の改善に伴う昭和58年度以降の調査研究事項について

昭和59年度第5回大学院委員会（2月15日）

（審議事項）

- 昭和60年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)工学研究科(修士課程)第2次入学試験合格者の判定について

昭和59年度第10回評議会（2月15日）

（報告事項）

- 昭和60年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)第2次入学試験合格者の判定について

- 教官人事について(教育学部)

- 共通第1次学力試験について

- 学生の動向について

（審議事項）

- 富山大学教養部規則の一部改正(案)について
- 昭和60年度富山大学文学専攻科、教育専攻科及び経済学専攻科入学者選抜試験合格者の判定について

第2回学長候補適任者選定委員会（2月18日）

昭和59年度第6回学園ニュース編集委員会(2月18日)

（審議事項）

- 第47号学園ニュースの編集について

昭和59年度第8回附属図書館商議会（2月18日）

（報告事項）

- 工学専門図書室運営費について

（審議事項）

- 大型コレクションについて

- 富山大学附属図書館閲覧規則改正(案)について

昭和59年度第4回教務委員会（2月19日）

（報告事項）

(1)教養部と学部との相互乗入れについて

（審議事項）

(1)昭和60年度非常勤講師について

昭和60年公開講座第4回委員会（2月22日）

（議 題）

(1)昭和60年度公開講座の実施計画について

第46回構内交通対策委員会（2月22日）

（審議事項）

(1)委員長の選出について

教務委員会及び補導協議会の合同委員会（2月26日）

（審議事項）

(1)富山大学学生部長選考基準に基づく次期学生部長候補適任者の選定について

昭和59年度第6回補導協議会（2月26日）

（報告事項）

(1)学生の動向について  
(2)日本育英会奨学生の推薦について

（審議事項）

(1)昭和60年度入学生行事日程について

第4回授業料等減免選考委員会（2月26日）

（報告事項）

(1)昭和59年度後期分授業料免除実施状況について



学 事



昭和60年度文部省内地研究員の決定

所 属	職	氏 名	研 究 場 所	研 究 題 目	研 究 期 間
経済学部	助教授	大野正道	東京大学	国際経済法	60.9.2～61.2.28
〃	講師	新里泰孝	一橋大学	経済成長及び景気循環の理論	〃
工学部	助手	桑原道夫	東京工業大学	強誘電性スメクチック液晶の分子配向制御とその表示素子への応用	60.5.1～61.2.28
教養部	助教授	海老原直邦	広島大学	認知過程の情報処理に関する研究	〃

◎ 退庁、退室の際には、戸締りの徹底・電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、盗難の防止・火災の予防に心がけましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

人事異動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
転 任	60. 3. 1	氏 家 治	工業技術院地質調査所鉱床部鉱床研究課主任研究官	助教授(理学部)	文 部 大 臣
	"	中 島 克 敏	富山工業高等専門学校会計課総務係総務主任	庶務部庶務課学事調査係研究協力主任	富山大学長
臨時的任用	60. 2. 21	前 田 由起子		教諭(教育学部附属養護学校)	"
辞 職	60. 2. 28	嶋 作 恭 子	教諭(教育学部附属養護学校)	辞職を承認する	"
退 職	60. 3. 1	齋 藤 昭 人	教務補佐員(教養部)	昭和60年2月28日限り退職した	"
	"	藤 木 彌三郎	事務補佐員(附属図書館)	"	"
	"	本 田 善 彦	" ( " )	"	"

学 内 諸 報

### 教育学部長の改選

大澤欽治教育学部長の任期が、昭和60年3月30日に満了することに伴い、教育学部教授会は2月20日に次期学部長候補者の選挙を行った。その結果、野村 昇教授が選出されました。任期は、昭和60年3月31日から2年間。

野村教授は、昭和26年10月京都大学医学部薬学科を修了後、同27年8月富山大学薬学部実験実習指導員、同29年5月同助手、同33年4月同講師、同33年10月同助教授、同46年5月教育学部助教授、同47年2月同教授となり、この間、昭和52年4月から5期にわたり富山大学評議員を併任、今日に至っています。

専門は、化学、薬学博士、富山県出身。

### 理学部長の改選

中川正之理学部長の任期が、昭和60年4月1日に満了することに伴い、理学部教授会は2月20日に次期学部長候補者の選挙を行った。その結果、中川正之現学部長が再選されました。任期は、昭和60年4月2日か

ら昭和62年3月31日まで。

### 工学部長の改選

位崎敏男工学部長の任期が、昭和60年4月1日に満了することに伴い、工学部教授会は2月25日に次期学部長候補者の選挙を行った。その結果、位崎敏男現学部長が再選されました。任期は、昭和60年4月2日から2年間。

### トリチウム科学センター長の改選

中川正之トリチウム科学センター長の任期が、昭和60年4月1日に満了することに伴い、トリチウム科学センター運営委員会は2月28日に次期センター長候補者の選考について審議を行った。その結果、全会一致をもって中川正之現センター長を再び選定し、学長に推薦することになりました。任期は、昭和60年4月2日から昭和62年3月31日まで。

叙位・叙勲

○死亡叙位・叙勲

元本学名誉教授（教育学部）小澤慎一郎氏は、昭和60年1月5日逝去（享年71才）されましたが、同氏の

生前の功績に鑑み、正四位，勲三等瑞宝章が授けられ、2月1日学長から遺族に対し、位記及び勲記・勲章が伝達されました。

工学部電気・化学系校舎等新営工事

本学工学部電気・化学系校舎等（電気・化学系実験研究棟，講義棟，高電圧実験室）新営工事は、昭和58年11月着工され、本年1月に竣工しました。

請負業者

大成建設株式会社 (建築)

和光電気工業株式会社 (電気)

川崎設備工業株式会社 (設備)

日本エレベーター製造株式会社 (エレベーター)

設置位置

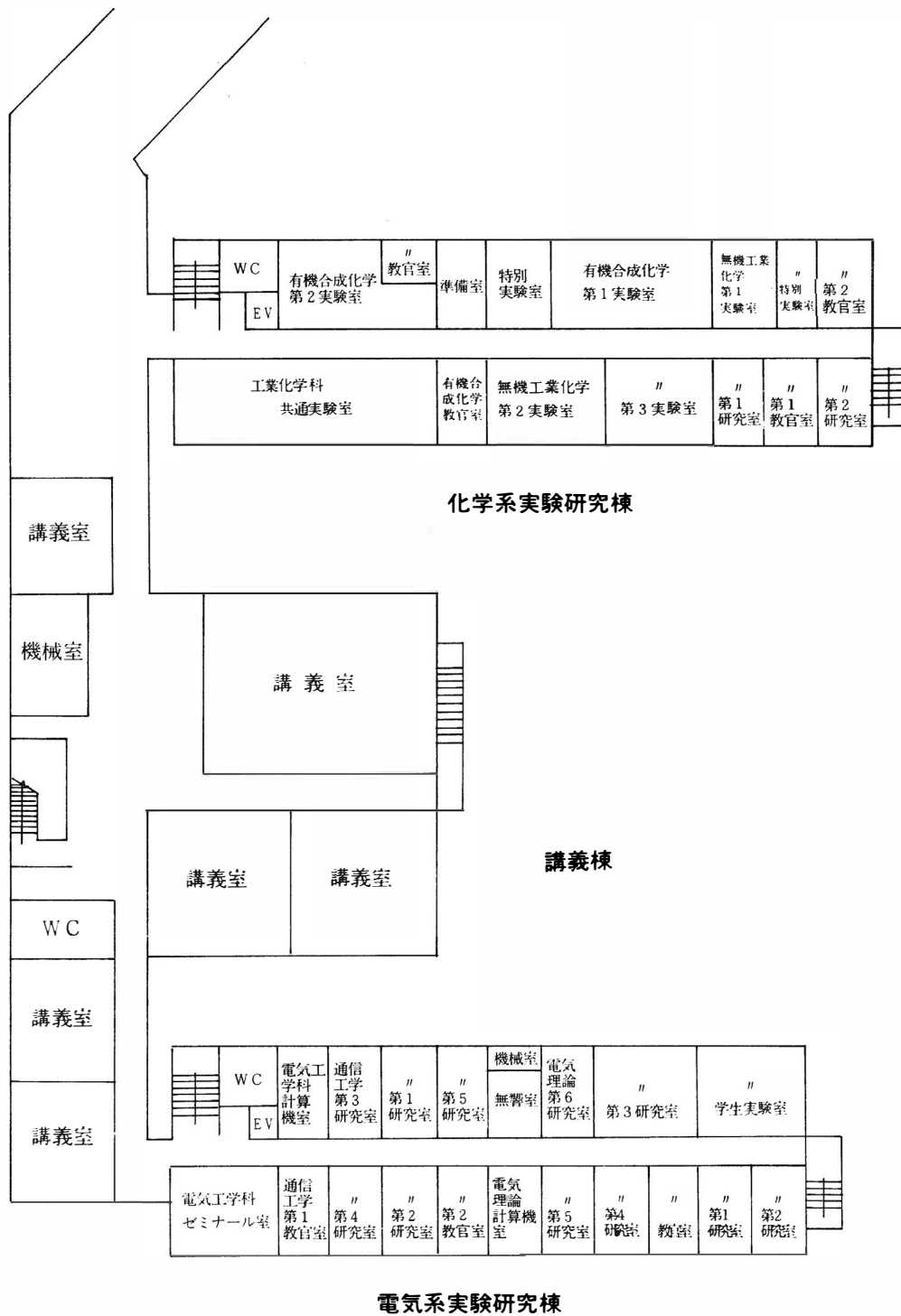
現金属系実験研究棟の東側

建物面積 10,594㎡ 5階建 一部2階及び1階



電気系実験研究棟

1階平面図



2階平面図

WC	環境化学準備室	" 教室	" 研究室	" 第2実験室	" 機器分析室	有機合成化学機器室	拡散単位操作第2実験室	" 第2教室
	EV					機械室		
工業化学科共通分析実験室			環境化学教室	" 第1実験室	拡散単位操作第3実験室	" 第2研究室	" 第1教室	" 第1研究室

化学系実験研究棟

WC	工作室	電子工学科学生第1実験室	制御工学学生実験室	" 計算機室	" 第1研究室	" 第2研究室	" 第3研究室		
	EV				機械室	機械室	機械室		
通信工学学生実験室	準備室	電子工学科学生第2実験室	暗室	加温培養室	化学準備室	制御工学第4研究室	" 第5研究室	" 第6研究室	" 教室
	工作室		電気工学第1研究室	機械室					

電気系実験研究棟

3階平面図

WC	機械の単位操作第3実験室	反応工学第1教室	" 特別実験室	" 第1実験室	印刷室	輸送現象研究室	暗室	工作室
	EV							
化学工学科文献データベース収集室	反応工学第2教室	" 第2実験室	化学工学科計算機室	輸送現象第1実験室	拡散単位操作第1実験室			

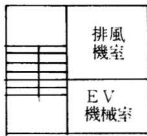
化学系実験研究棟

WC	電子素子化学実験室	" 第1研究室	" 第2研究室	" 第3研究室	" 第4研究室	" 第5研究室	基礎電子工学第2研究室	" 第3研究室	" 第4研究室	" 第5研究室	
	EV					機械室	機械室	機械室			
電子工学科会議室	暗室	電子素子工学第1教室	" 第6研究室	" 第7研究室	" 第2教室	基礎電子工学第6研究室	" 第2教室	" 第1研究室	" 第7研究室	" 第8研究室	" 第1教室
	実験準備室										

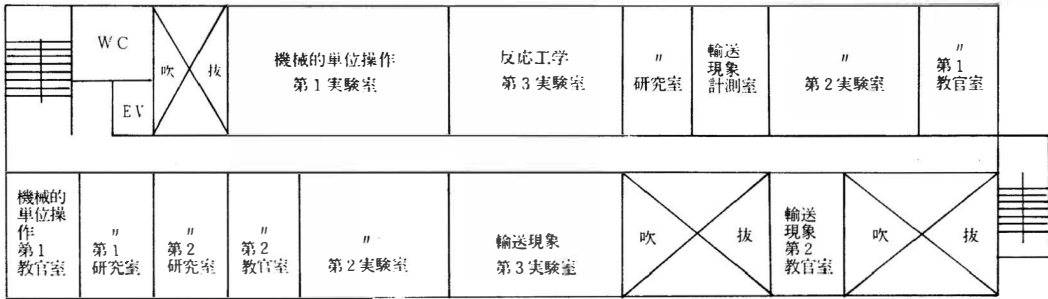
電気系実験研究棟

4階平面図

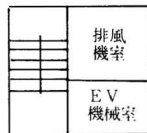




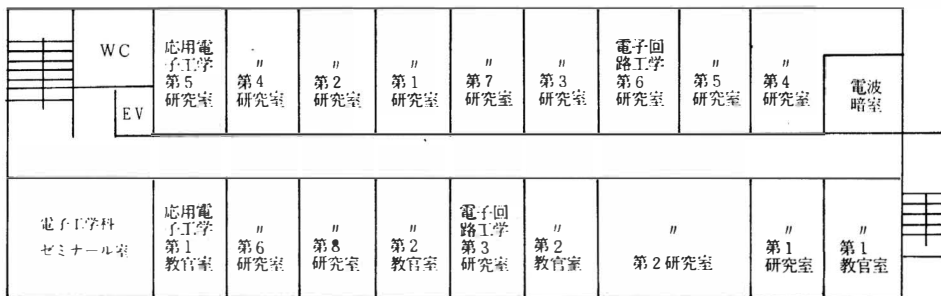
P・H平面図



化学系実験研究棟

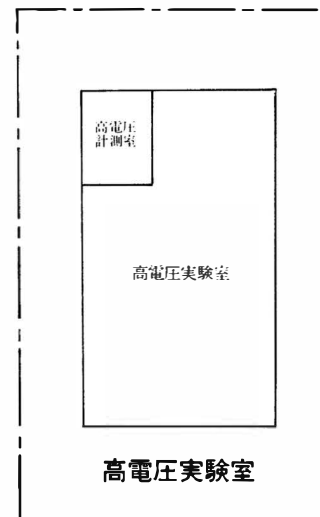


P・H平面図



電気系実験研究棟

5階平面図



高電圧実験室

## 学内レクリエーション

## 〈麻雀大会〉

本学レクリエーション委員会娯楽部会所属の麻雀班主催による昭和59年度学内麻雀大会が、去る2月9日(土)48名(12チーム)の参加者を得て職員会館で実施されました。

なお、成績は次のとおりです。

## 個人戦

優勝 泉 三郎(人文学部・理学部) + 178.5  
 次勝 御福 隆(学生部) + 115.7  
 3位 森田憲治(工学部) + 112.1  
 名人賞 中三川敏之(教育学部) + 0.3

## 団体戦

優勝 人文学部・理学部B(山田,堀,柴田,下田)  
 次勝 人文学部・理学部A(泉,岩城,大崎,堀口)  
 3位 学 生 部(森,土肥,御福,向)

## 〈卓球大会〉

本学レクリエーション委員会体育部会所属の卓球班主催による昭和59年度学内卓球大会が、去る2月16日(土)約50名の参加者を得て、第2体育館で実施されました。

なお、成績は次のとおりです。

## 団体戦

優勝 教育学部チーム  
 次勝 教養部チーム

## 個人戦

## 男子

優勝 森 克徳(教養部)  
 次勝 武本光雄(工学部)

## 女子

優勝 作道勢以子(工学部)  
 次勝 三浦みより(教養部)

## 寄 稿

## 〈オハイオ州立大学でのいくつかの印象〉

教育学部助教授 渡 邊 信

昨年4月から約10ヶ月半、私はアメリカ合衆国オハイオ州立大学に滞在する機会を与えられました。オハイオ州立大学は本校がオハイオ州コロンバスにあり、学生数は大学院を含めて約6万人、教官3千人、職員1万5千人もいます。コロンバスの人口は約100万人ですから、大学はこの街の最大の事業体です。学内には循環バスが走り、学期が始まる頃になるとバスは学生で満員になります。

私は、本校の生物科学系カレッジの植物学・動物学の建物にある、植物学担当G. L. フロイト教授の研究室にいました。この建物の壁には、ツタを一面にはわせてあり、長い伝統があるような雰囲気を感じさせるデザインされた感じでした。我々の実験室やオフィスは地下にあり、朝に室に入ってしまうと、わざわざ出かけないと今どのような天気になっているのかさえわからない程です。めったにないことだとは言っていましたが、私がガスバーナーを使っている時突然停電になり、手さぐりで火を消して外に出ました。自然光の

入らない室の恐しさを味わったというところです。

オハイオに行く前には、彼の研究室には多くの大学院生が実験にいそしんでいるのだろうと想像していましたが、行ってみるとポストドックが1人、修士課程の学生が1人いるだけでした。フロイト教授と共著の論文をたくさん見ていたので、どんなに忙しくしているのかと思っていたのに実際は小さな世帯でした。少ない人数でたくさんの論文を次々に書けるというのは、テーマが適切で、設備がよく整い、非常に効率が良いということでしょう。

コロンバスに着いた夜、フロイト教授は自宅で3つの賞を見せてくれました。ひとつはシニアクラスのゴルフトーナメントで優勝した時のもので、彼は実はゴルフが大好きだったのです。大学生の時には野球のセンターでならし、卒業時にはプロ野球からドラフト指名されたといひます。彼はしかし中学校の先生になる決心をし、3年間教壇に立ち、その後奨学金を与えられ大学院に進んだとのこと。野球をやめた後はゴ

ルフにこり、今でも夏の授業のない時研究室から消えてしまうこともありました。次の賞はオハイオ州立大学で毎年数人のBest Teacher に贈られるもの、もうひとつは同じくBest Researcherに贈られるものでした。両方の賞をもらうのは稀なことだそうです。良い研究をするとつい教育がおろそかになり、教育に力を入れると良い研究ができなくなるという傾向があるようです。

彼の授業に出てみるとよく準備されているのに驚きました。数回にわたるトピックごとに今までの重要な文献リストが渡されます。その中で特に必要なのはゼロックスが渡され、それを読むのが宿題になっています。毎日のデイリーシートが用意されていて、そこに重要な専門用語のスペルが記されており、授業中にとまどわないよう配慮されています。室の横のテーブルには関連した内容を扱った本がページを開けておいてあり、授業の後に見るようになっていきます。授業には、ほとんどがスライドを写し、学生は薄暗くした室内で忙しくノートをとっていました。学生はもちろん私語をすることはありませんが、暑くなるとコーラを飲んだり、ガムをかんだりして聴いていました。

オハイオ州立大学はアメリカの巨大な10大学、つまりビッグテンのなかで、学生の卒業率が30%と最も悪いところですが、これは入学資格の程度が低いことが理由のひとつです。学生は入学はしても卒業までの単位がそろえられないので、次々に落伍していくのでしょうか。試験はかなり厳密で、する方もされる方も真剣にならざるを得ないので。試験は3ヶ月のクウォーターの間に中間と期末の2回あり、試験の2週間前ぐらいから授業の合間を使って、どのような内容の試験をするかというガイダンスをしておきます。試験時間は、授業時間よりも通常前後にのび、数時間かけてじっくりやります。試験はペーパーテストだけでなく、口頭試問をやったり、あるいは講義されたトピックスに関して自分で調べたことを学会の講演と同じように12分間他の学生の前で話をし、3分間の質問討論時間を設けるということまでやっていました。これは最近の試みだそうです。最も教育効果の上の方法だそうです。授業中、先生の話の合間に質問するのはあたりまえのことでしたが、特に細胞微細構造の講義には出席自由の質問の日を設けていました。渡されたゼロックスの論文を読んでわからなかったところを聞いたりしていたようです。

2週間に一度はどこかの部門でもセミナーが開かれて

います。オハイオ州立大学は大きいのでそれだけセミナーの数が多く、いろいろな話題が提供されていました。セミナーは自分の研究していることを講演するという形式のもので、その分野で著名な人が呼ばれて最新のトピックスを話します。理解するための素地が必要なのはもちろんですが、異なる分野でも現在話題になっているのはどのようなことかを直接聞けるので、とても有効な機会だと思いました。講演者には交通費が支給されますが、宿泊はたいがいそのセミナーを担当するホスト(教官)が家を提供し、講演の謝礼は通常ないとのことでした。講演者にとって講演を依頼されることは名誉なことであり、その人の所属する大学としても大学の宣伝になるから好ましいことだと考えているようです。

フロイト教授の室では4年生の学生が秋から研究を始めることになっていました。彼は授業で特に興味を持ったトピックがあり、研究をやりたいと申し出たようです。幸い彼はそのために月200ドルの奨学金をもらえるようになり、張り切って仕事をしていました。ある時、教務関係の事務の人が彼が4年生であるのに研究をしているのは非常に珍しいことだと言って、アメリカ東部大学の4年生研究発表会で発表したらどうかと勧めてくれたそうです。日本の多くの大学では卒論があり、学生は何か研究をすることになっていきますが、アメリカでは大学生の間には研究はしないのが普通のようなようです。その学生は自分で発表する機会に恵まれたと非常に興奮していました。

今年1月になると新しい修士課程の学生が来ました。彼は4年生の時受けた授業がとても面白く、その講義をした先生の勧めがあって、この研究室に来たのだそうです。大学院に進学しようとする学生は4年生の12月頃に共通試験を受けます。大学入学の時にも共通試験を受け、自分の点数を知って志望校を決めるのですが、大学院の場合も同じような方法でやっているようです。点数に応じていくつかの志望校に願書を出し、受け入れられたら行くといったシステムです。面白いのは、自分のやりたいテーマで最良の教授のところに行くということをよく研究していますし、受け入れる教授の方でも、どのような研究をやるかを電話などでよく知らせておくようです。大学院生も自分の研究の重要な手足とみなすアメリカにあっては、どのような学生が来るのかをはっきり知っておきたいということなのでしょう。

さて、昨年6月末には、4年間ポストドックでいた

という人がカリフォルニアで研究助手のポストのインタビューに出かけました。ポストがあくと通常公募がおこなわれ、応募者が多い場合には書類選考で10人にしぼられ、さらにそのうち4人がインタビューに招待されます。インタビューというのは、自分の研究を紹介する講演会のことです。彼がポストドックになってから久しぶりにめぐって来たチャンスなので、かなり張り切っていましたが、残念ながらもっと研究費のたくさんとれる応用部門の人が採用されました。よく知られているように、アメリカでは各教官は自分の研究費をNSFなどから取ってきますが、研究費の数10%は大学が召し上げてしまい、その残りでやっていかなくはなりません。従って大学側としても金の多くとれる研究を望む訳で、そのために彼は採用されなかった

のです。たくさんの応募書類を書き、インタビューで講演し、長い間準備したにもかかわらず結局うまくいかなかったのですが、このことを聞いて興味深く思ったのは、選考過程の長さで、かなりの部分が公開の場でなされることです。これでは選ぶ方も選ばれる方も、ましてやそれでダメだった人も大変であろうと思うのですが、フェアにやることが第1に大切だと考える伝統が、ここにも生きているのだと思いました。

現地に行ってしばらくすると、そこでの生活にも慣れ、雑用や授業に追われることなく研究していると、月日のたつのはとても早く、すぐに帰る頃になりました。ごくわずかのことですが、ここに印象に残ったことを書きとめました。



(オハイオ州立大学、動・植物学教室の建物)

▶ 筆者は、文部省長期在外研究員(乙種)として、昭和59年4月4日から昭和60年2月17日まで単細胞緑藻の微細構造の研究のため、アメリカ合衆国へ外国

出張されましたので、特に寄稿を御依頼したものです。

## 職 員 消 息

### 《新任者》

#### 庶務部

文部事務官 中島 克敏  
(学事調査係  
研究協力主任)

助 教 授 氏 家 治  
(地殻進化学)

### 《住所変更》

#### 経済学部

助 教 授 泉 田 榮一

### 理 学 部

理 学 部

助 手 中川 邦明

《住所表示変更》

庶 務 部

事務補佐員 前田 洋美

助 手 松原 勇

主 要 行 事

本 部

2月

- 1～13日 昭和59年度学内会計監査
- 4日 第2回学長選考管理委員会  
第1回学長候補適任者選定委員会  
第10回学寮補導委員会
- 5～6日 臨時東海・北陸地区国立大学事務局長会議  
(於 金沢大学)
- 6日 国大協第3常置小委員会(於 国大協)
- 7日 人事記録作成状況調査
- 8日 庶務係長会議
- 9日 学内麻雀大会
- 9～15日 富山大学入学願書受付
- 12日 公開講座第3回委員会
- 13日 部課長会議
- 15日 第5回大学院委員会  
第10回評議会  
第6回入学者選抜方法研究委員会専門委員会
- 16日 学内卓球大会
- 18日 第2回学長候補適任者選定委員会  
学務関係係長会議  
第6回学園ニュース編集委員会
- 19日 第4回教務委員会  
第27回北陸5大学施設担当者協議会  
(於 富山大学)

- 21～22日 東海・北陸地区国立大学学生部臨時次長・課長(入学主幹)会議(於 名古屋大学)
- 22日 公開講座第4回委員会  
第46回構内交通対策委員会
- 25日 入学試験電子計算機処理委員と学生部との打合せ会
- 26日 公開講座実施状況調査  
教務委員会及び補導協議会の合同委員会  
第6回補導協議会  
第4回授業料等減免選考委員会
- 27日 第43回国有財産北陸地方審議会  
(於 金沢第2合同庁舎)
- 28日 国大協理事会(於 国大協)

人 文 学 部

- 2月1日 文学専攻科調査書審査
- 4日 昭和59年度学内会計監査
- 6日 人事教授会  
学部教務委員会
- 7日 文学専攻科入学者選抜試験
- 13日 学部将来計画委員会  
教授会  
人事教授会  
語学文学科打合せ会  
後学期授業終了
- 16日 文学専攻科合格者発表

- 18日 学部補導委員会と学部教務委員会の合同会議  
 19日 事務連絡会  
 20日 教授会  
 学部長候補者選挙管理委員会  
 25日 入学者選抜調査書審査  
 学部長候補者選挙管理委員会

- 27日 学部教務委員会（持ち回り）  
 各種委員選考委員会  
 人事教授会  
 教授会

**教育学部**

- 2月1日 附属小学校入学者第1次選考（発育検査）  
 3日 附属中学校入学者第1次選考（学力検査）  
 6日 昭和59年度学内会計監査  
 学部教務委員会  
 7日 附属小学校入学者第2次選考（抽選）  
 附属中学校入学者第2次選考（抽選）  
 9日 教育専攻科入学者選抜試験  
 11日 後学期授業終了  
 13日 学部教務委員会・補導委員会合同会議  
 学部教務委員会  
 教授会  
 16日 教育専攻科合格者発表  
 19日 教育実践研究指導センター運営委員会  
 20日 学部長候補者選挙  
 21～22日 第26回国立大学教育工学センター協議会及び研究会（於 東京学芸大学）  
 23日 学部補導委員会  
 24～26日 教員養成学部学生合宿研修（冬季）  
 （於 県営 Gondrasuki 場）

**経済学部**

- 2月5日 昭和59年度学内会計監査  
 6日 学部職業補導委員会  
 7日 学部将来構想検討委員会  
 8日 経済学専攻科入学者選抜試験及び選考委員会  
 9日 後学期授業終了  
 13日 学部教務委員会  
 人事教授会  
 教授会  
 20日 学部将来構想検討委員会

**理学部**

- 2月4日 昭和59年度学内会計監査  
 5日 大学院理学研究科（第2次）調査書審査  
 学部長候補者選挙管理委員会  
 7～8日 大学院理学研究科（第2次）入学者選抜試験  
 13日 教授会  
 人事教授会  
 理学研究科委員会  
 後学期授業終了  
 14日 学部教務委員会  
 16日 大学院理学研究科（第2次）合格者発表  
 20日 教授会  
 学部長候補者選挙  
 学部補導委員会と学部教務委員会の合同会議  
 25日 入学者選抜調査書審査

**工学部**

- 2月  
 5～6日 大学院工学研究科（第2次）入学者選抜試験  
 8日 昭和59年度学内会計監査  
 13日 工学研究科委員会  
 教授会  
 15日 大学院工学研究科（第2次）合格者発表  
 23日 後学期授業終了  
 25日 学部構内交通対策委員会  
 教授会  
 専任教授会

**教養部**

- 2月1日 昭和59年度学内会計監査

6日 人事教授会  
教授会  
12日 補導委員会  
13日 図書委員会  
緊急教授会  
14日 後学期授業終了  
20日 補導委員会  
27日 教務委員会

### 保健管理センター

2月5日 臨時健康診断（教養部スキー実習受講者）  
13日 昭和59年度学内会計監査

### 経営短期大学部

2月  
5～12日 推薦入学願書受付  
6日 第3回教務委員会  
8日 第13回教授会（持ち回り）  
12日 昭和59年度学内会計監査  
14日 第14回教授会  
17日 推薦入学者選抜試験  
第4回入学者選抜学力試験委員会  
20日 第15回教授会  
21日 第3回国立短期大学協会第2部会  
（於 埼玉大学国際交流会館）  
28日 第5回入学者選抜学力試験委員会

### 附属図書館

2月7日 昭和59年度学内会計監査  
18日 第8回商議会  
20日 電算化ワーキンググループと富士通S Eとの打合せ  
22日 北陸地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議（於 金沢大学）  
28日 北信越地区国立大学図書館研修会（於 福井医科大学）

### トリチウム科学センター

2月13日 昭和59年度学内会計監査  
28日 トリチウム科学センター運営委員会

◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!



## 資 料

## 昭和60年度入学志願者数

学 部	学 科・課 程	昭 和 60 年 度			昭 和 59 年 度		
		募集人員	志願者数	倍 率	募集人員	志願者数	倍 率
人文学部	人文学科	90	270	3.0	90	425	4.7
	語学文科学科	80	208	2.6	80	202	2.5
	計	170	478	2.8	170	627	3.7
教育学部	小学校 教員養成課程	140	305	2.2	140	176	1.3
	中学校 教員養成課程	50	183	3.7	50	110	2.2
	養護学校 教員養成課程	20	58	2.9	20	43	2.2
	幼稚園 教員養成課程	30	123	4.1	30	74	2.5
	計	240	669	2.8	240	403	1.7
経済学部	経済学科	120	390	3.3	120	327	2.7
	経営学科	120	573	4.8	120	544	4.5
	経営法学科	60	293	4.9	60	287	4.8
	計	300	1,256	4.2	300	1,158	3.9
理学部	数学科	40	59	1.5	40	78	2.0
	物理学科	30	50	1.7	30	88	2.9
	化学科	40	58	1.5	40	83	2.1
	生物学科	30	71	2.4	30	63	2.1
	地球科学科	30	74	2.5	30	68	2.3
	計	170	312	1.8	170	380	2.2
工学部	電気工学科	50	94	1.9	50	111	2.2
	工業化学科	45	206	4.6	45	104	2.3
	金属工学科	40	138	3.5	40	175	4.4
	機械工学科	50	155	3.1	50	125	2.5
	生産機械工学科	40	116	2.9	40	131	3.3
	化学工学科	40	113	2.8	40	145	3.6
	電子工学科	40	63	1.6	40	68	1.7
	計	305	885	2.9	305	859	2.8
合 計		1,185	3,600	3.0	1,185	3,427	2.9

(注) 理学部物理学科の募集人員には、第2次募集人員(10)を除く。

編集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 あけぼの企画  
富山市曙町8-4  
電話(33)3356(代)